完了報告書（平成 22 年度）

提出者　　中田明日佳

提出年月日　2010 年 3 月 30 日

【プロジェクト名】

和文　「西洋絵画における親密なる男女の表象」

英文　Representations of Couples in the Western Paintings

【メンバー構成】

研究代表者　中田明日佳

幹事　　中田明日佳

メンバー　　尾崎恵子、倉持充希、西嶋亜美

【ねらいと目的】西洋絵画においては、しばしば婚礼の場面や夫婦、恋人たちの姿が描かれてきたが、それらの「親密なる」男女を可視化した作品は、単なる現実の再現ではなく、画家の手による造形化のプロセスを経たものであるからこそ、制作当時の結婚観、恋愛観を生き生きと伝え得る。このような視点に基づいて、本次世代ユニットでは、男女のカップルが登場する絵画作品を取り上げ、画中で 2 人の関係性がいかに表象されているかを分析し、さらに、そうした表現へと画家を方向づけた社会的な背景や価値観の反映を読み解くことを試みる。この目的のために「結婚」、「恋愛」の 2 つのサブテーマを設け、具体的作例に即した研究を行うが、まず、「結婚」に関しては、16 世紀ネーデルラント及び 16 世紀末から 17 世紀スペインの事例を取り上げる。そして、結婚や恋愛に厳しい規制を課す社会通念が依然色濃く存続していた近世社会にて描かれた婚礼や夫婦の図像を分析する。一方、「恋愛」に関しては、より自由な風潮の中で、古代神話や恋愛物語を大いに愛好したイタリア、フランス文化の中でも、17 世紀ローマと 19 世紀パリに着目し、虚構あるいは現実の恋人たちを描き出した作品を考察する。以上の検討をふまえて、時代、地域によって流動した男女の関係のあり方をめぐる社会通念がいかに絵画に反映されえたかという問題を論じ、また、このような私的領域を表象した絵画を享受する文化的土壌を培ってきた歴史のあり方を明らかにするのである。

【活動の記録】尾崎［2011/9/10～現在］研究拠点をスペイン、マドリードに移し、図書館、美術館、王宮、デスカルサス・レアレス修道院等や教会で作品や所蔵資料の調査。**［その他の調査］**2010/10/2,3,9,10,16,17: トレドのカテドラル、サンタ・クルス美術館、エル・グレコの家等にて所蔵作品の実見調査// 2010/10/23,24,30,31 エル・エスコリアル修道院にて所蔵作品、資料等の調査// 2010/1/18-19: グラナダのカテドラル、美術館及びセビージャ美術館等にて所蔵作品の調査。**倉持［2010/10/13～現在］**研究拠点をパリに移し、ルーヴル美術館やパリ市内の美術館で開催される特別展（『ルーベンスとプッサン』（ジャック・マール・アンドレ美術館）、『夢見た古代』『ピエトロ・ダ・コルトーナ素描展』（ルーヴル美術館）等）で絵画作品の実見調査、国立美術史研究所や各種図書館にて資料調査。**［その他の調査］**2011/1/16-25: ロンドン、ナショナル・ギャラリーの展示室・資料室にて作品調査と所蔵記録の閲覧、資料収集。ウォーバーグ研究所（ロンドン）の図書室・写真コレクション室にて調査。ナショナル・ポートレート・ギャラリー及びダリッジ美術館（ロンドン）、ホヴィンガム・ホール（ヨーク）にて作品調査。ロンドン、ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館内の国立美術図書館にて資料収集。**中田［～現在］**京都大学に本拠を置き、文献や画像資料等を用いて研究を行った。**［調査］**2010/9/5-21: オランダ国立美術史研究所（ハーグ）にて画像資料調査。ベルギー王立美術館（ブリュッセル及びアントウェルペン）、国立ゲルマン博物館（ニュルンベルク）、マイヤー・ヴァン・デン・ベルフ美術館（アントウェルペン）にて作品の実見調査。ルーヴァン大学図書館にて文献資料調査。**西嶋［2011/10/13～現在］**研究拠点をパリに移し、国立図書館や各種図書館、ルーヴル美術館、オルセー美術館、プティ・パレ美術館の作品や所蔵資料を利用して研究を行った。また、19 世紀に関連する美術館や展覧会に足を運ぶとともに、パリを拠点として他都市への調査旅行を実施。**［その他の調査］**2010/10/21：シーンギャラリー（フランクフルト）にて開催中の『ギュスターヴ・クールベ―近代芸術の夢―』展の調査（他の調査も兼ねて 10/19-10/22 に出張）。12/10：ファーブル美術館（モンペリエ）にて所蔵作品および展覧会の調査。2011/1/23：リヨン美術館にて所蔵作品の調査。1/30　アミアン美術館にて所蔵作品と展示の調査。

【成果の概要】16 世紀ネーデルラントの「結婚」の表象を担当した中田は、農民の婚礼図、特にピーテル･ブリューゲル（父）の《農民の婚宴》（1567/68 年、ウィーン美術史美術館）を分析対象とした。そして、この作品に、農村共同体の繁栄がもたらす豊穣を願い、結婚即ち子供の誕生をその礎と見なした当時の都市民の心性が反映されている点を指摘した。同じく「結婚」表象を担当した尾崎は、聖ヨセフ解釈の過渡期とも言える 16 世紀末に描かれたエル・グレコの作品数点を対象として、16 世紀末から 17 世紀スペインで聖ヨセフがマリアの「夫」としての地位を向上させるために、どのような解釈の変化が起こったのかを論じた。そして、ヨセフとマリアが生殖や嫡子誕生といった世俗的夫婦に期待された役割から自由であったからこそ、ヨセフが聖家族の中で確固たる地位を築きえたと結論づけている。このような中田、尾崎の研究からは、結婚の意義を子供の誕生と共同体の維持、発展に求めた当時の社会のあり方と、結婚の意義を認めつつ、生涯独身に留まり純潔を保つことを至高としたキリスト教倫理の反映が見て取れよう。

一方「恋愛」表象の分析を担当した倉持は、虚構の恋人の表象として、17 世紀前半にローマで制作された神話画に着目した。プッサン作《ケファロスとアウロラ》（ロンドン、ナショナル・ギャラリー）を中心に調査を行い、画家が神話という設定においても、身振り等の表現によって画中の男女の心情を繊細に視覚化し、鑑賞者に対し、恋愛という普遍的な営みへの想像を喚起した一例を示した。同じく、西嶋は 19 世紀半ばのパリで描かれた「現実の」カップルに注目した。そして、クールベ作《田園の恋人》(1844 年頃、リヨン美術館)を始めとする「現実の」恋人表象において、田園の背景やワルツの身体的な経験が恋愛観の表現の効果的な手段となっていたことを、文字資料や版画の中の恋人表象の精査を通じて示す。そしてさらに、当時は自由恋愛の弊害を危惧する声が高かったに関わらず、絵画や版画において、ときに虚構的な手段を用いて表された情熱的な真の愛の只中にある男女の姿は、あくまでも肯定的な視点で描かれていると論じるのである。倉持、西嶋の論考からは、実社会では社会秩序の混乱や当事者の不幸を招くこともありえた一方、絵画や版画においては恋愛を高らかに賛美した都市の文化や社会の在り方が垣間見えるであろう。

【通信欄】

（研究代表者記入）

プロジェクト	□次世代　■次世代ユニット　□男女共同参画に資する調査研究		
経費 600（千円）	予算額　600　（千円）	実績額　600（千円）	

様式 2

最終成果報告書（ワーキングペーパー）のホームページ公開に関する許諾書

研究成果タイトル
「西洋絵画における親密なる男女の表象」

グローバル COE プログラム「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」に提出する上記の最終研究成果報告書（ワーキングペーパー）の PDF ファイルを同プログラムのホームページに公開することについて、下記のように返答します。

2011 年 3 月　30 日
最終研究成果報告書（ワーキングペーパー）
の執筆者全員のお名前（自署捺印）

記

□　許諾する。

□　部分的に許諾する。
許諾する部分を具体的にご記入ください。

■　下記の理由により許諾しない。
□調査対象者の個人情報保護のため
■その他　（具体的に理由をご記入ください）使用画像の著作権保護のため。